

海を照らす灯台のなかまたち

～高茂埼灯台（こうもさきとうだい）～

高茂埼灯台は、100メートルを超える断崖が続く愛媛県最南端の高茂岬に建っていて、眼下に豊後水道や宿毛湾の雄大な景色が広がっています。



【高茂岬の断崖上にある灯台】

灯台の周辺は、高茂岬展望園地として整備されていて、素晴らしい眺望は日本有数です。

この園地がある場所は、1941年（昭和16年）の太平洋戦争が始まる直前に、海軍呉鎮守府高茂衛所が置かれ、潜水艦などの敵艦船侵入を監視していました。

衛所跡地はほぼ原形を留めており、当時を偲ぶことができます。



また、国道56号線から灯台に至る道中には、1978年（昭和53年）に久良湾の海中で発見された、海軍局地戦闘機「紫電改」（紫電二一型）が保存・展示されており、これは日本に現存する唯一の紫電改とのことです。



【陸軍四式戦闘機「疾風」と同様に傑作機の誉れ高い紫電改】

この機体は、戦争末期、優秀な搭乗員と戦闘機を擁して本土防空の任にあたっていた、松山基地（後に鹿屋、国分、大村と移動）の第三四三海軍航空隊（司令は元航空自衛隊幕僚長・参議院議員の源田實大佐）の所属で、1945年（昭和20年）7月24日、敵艦載機要撃のために豊後水道上空で交戦した後、未帰還となった6機の中の1機とされています。

高茂埼灯台は、戦後の1950年（昭和25年）に建設され、当時の灯火用機器に何が使われていたのか不明ですが、1952年（昭和27年）の図面に貯気筒が描かれていますので、アセチレンガス

灯器を使用していた時期もあったようです。

(1951年(昭和26年)、広島県の鯛尾浮標基地(現在の広島浮標基地)構内にガス工場が新設され、貯気筒への充填作業が行われていました)

1964年(昭和39年)には付属舎を増設して発動発電機が設置され、光源も電球に替わっています。



【1964年(昭和39年)頃の高茂埼灯台】

現在の灯塔は1991年(平成3年)に改築されており、使用する機器もLED灯器や太陽電池装置となっています。



【付属舎併設タイプの灯塔】



【LED灯器（V型白）】



【太陽電池装置モジュール】

○高茂埼灯台要項

所在地 愛媛県南宇和郡愛南町（高茂埼）

塗色・構造 白色、塔形（コンクリート造）

灯 質 単せん白光 毎7秒に1せん光

光達距離 7.5海里（約13.9km）

高 さ 地上から構造物の頂部まで 6.02m

平均水面上から灯火まで 141.89m

地上から灯火まで 5.90m